

目指す学校像	百年余りの本校の歴史を大切に受け継ぎ信頼を土台とした子ども一人ひとりが輝ける学校
--------	--

重点目標	1 よさを見つけ、認め、伸ばすことで、児童一人ひとりが達成感を味わえる教育活動を展開する 2 安心・安全で美しく整えられた教育環境づくりと心豊かな児童の育成を図る 3 地域とともにある学校づくりを推進する 4 教職員の資質向上を図り、持続可能な教育活動を実践する組織づくりを行う
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価								学校運営協議会による評価	
年度目標				年度評価				実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	○令和5年度さいたま市学習状況調査の結果では、小3から小6まで、どの学年でも市平均正答率を上回り概ね良好な結果が見られる。 ○学力に反して、学習意欲に関する状況は、市平均を下回っている学年が、4学年中3学年とあり、学習意欲において課題が見られる。 ○学習における話し合い活動に課題が見られ、学び合いの場面やグループ活動において、自分の考えを深めたり、広めたりすることが十分でない状況が見られる。 ○タブレット等ICT機器の積極的な利用は進んでいる状況はあるが、子どもたちの思考を深める、伝えあい考えを広める等の場面の効果的な活用が十分ではない。 ○リフレッシュ工事で、活動場所の制限が加わり、運動の機会確保が十分でない。	主体的・対話的で深い学びの実現	①学びのポイント「『じ・し・や・く』でつながる学び」を意識した授業改善を推進する。 ②さいたまSTEAMS教育、さいたま市スクールダッシュボードの活用など、新しい教育課題の取組を積極的に推進する。 ③さいたま市スマートスクールプロジェクト等ICT環境を最大限に活用して学びの充実を図る。	①市学習状況調査等で学習意欲に関する項目で令和5年度の数値を超えることができたか。 ②授業改善の視点を明確にした授業実践に取り組むことができたか。 ③児童の思考を深める場面でICT機器を効果的に活用することができたか。					
		学びの基本となる健やかな身体の育成	①夢中になって取り組む体育授業づくりと外遊びを推進する。 ②運動機会の確保に努め、朝運動の工夫と充実を図る。 ③自助、共助への意識の向上を図り、「自分の命は自分で守る」という心構えを育てる。	①学校評価アンケートにおいて体育授業、外遊びへの関心に関連させた項目で令和5年度の数値を超えることができたか。 ②朝運動の指導計画の作成と計画的な実施ができたか。 ③校内におけるけがの件数が令和5年度より減少させることができたか。					
2	○リフレッシュ工事(校舎)が昨年より開始され、B棟及びC棟が完了し、この4月から使用を開始している。使用開始に当たって、以前と使用方法が異なっていたり、安全防止装置がはずされてしまったりしている部分が見られ、事故防止の点から再度点検を行う必要がある。また、2学期からはA棟も改修が終了し使用が開始されるが、同様の配慮が求められる。 ○「心と生活のアンケート」で要面談とされている児童の割合が対象児童全体の26.6%と高い状態である。大きな生徒指導上の問題は今年度発生していないが、児童の心の健康状態については、常に注視していく必要がある。 ○危機管理体制の整備は実施されているが、機能しているか、形骸化していないかといった点で確認していく必要がある。	安心・安全で美しく整えられた教育環境づくり	①危機管理意識を高めた対応を充実させる。 ・「心のサポート 手引き」に沿った対応を確実に実施する。 ・アレルギー疾患等について保護者と連携した対応と事故防止を推進する。 ②リフレッシュ工事後の施設活用に計画的に取り組む、四季が感じられる潤いの環境づくりを推進する。	①危機管理に関する自校マニュアル等の見直しと危機事案において適切な対応を実施できたか(検証)。 ②工事終了後、施設の有効活用や安全面の点検、確認がなされているか。					
		豊かな関わり合いを通して心豊かな児童の育成	①「日本一心のこもったあいさつ」ができる学校づくりを推進し、誰に対してもあいさつができる心と態度を育む。 ②道徳教育、人権教育の一層の充実を図り、多様性を認め合う「みんなちがってみんないい」の意識を、年間を通して浸透させる。 ③一人ひとりの児童の Well-being を大切に支援の充実を図る。	①②「あいさつ」や「思いやり」についての児童の自己評価で前年度を上回ることができたか。 あいさつ：「そう思う」70%以上 思いやり：「そう思う」60%以上 ③特別な支援を必要としている児童に対し、ケース会議等で適切な支援が検討され学校として、組織を生かして実施することができたか。					
3	○学校運営協議会が組織され、学校経営については概ね理解されている様子が見られる。次の段階として、地域の子どもを育ぐむのに学校、家庭、地域が三位一体となってどのように取り組むのか、協働での具体的取組を計画、立案実施していくことが求められる。 ○地域の教育力を学校教育に取り組むために、スクールサポートネットワークの活用を図る必要がある ○学校だよりや学校公開等を実施し、学校の理解を促す取り組みを実施している。より充実化することにより開かれた学校づくりを目指す。	家庭と連携し、地域に根差した教育の推進	①学校運営協議会、スクールサポートネットワークを核にし、学校と保護者、地域が協働し、子どもの成長を支え、地域社会作りに寄与する。 ②学校安全ネットワークの組織を生かし、事故の防止に努める。	①学校運営協議会等で学校、保護者、地域が協働した具体的取組を実施することができたか。 ②学校安全ネットワークの組織を維持し、児童の事故防止に効果を発揮したか。					
		保護者・地域へ積極的な情報発信を通して開かれた学校づくりの展開	①学校だより、ホームページ、学年通信、学校安心メール等を効果的に活用する。 ②授業参観や学校公開を通して、保護者、地域に教育活動を積極的に公開する。	①学校だより等を定期的に発行、更新し教育活動等の取組を積極的に情報提供できたか。 ②学校公開等を工夫して実施し、教育活動を積極的に公開できたか。					
4	○教職員の資質向上の研修は確実に行われる体制が築かれているが、指導力向上における研修が学校規模が小さいからか、盛んに行う処までには至らない状況が見られる。GIGAスクール推進等これからの教育課題に応えるためにも更なる研修の推進が望まれる。 ○時間外在校時間が長い職員が数名見られ、働き方改革への意識の差が見られる。持続可能な働き方を全職員で考えていく必要がある。	教職員のキャリア段階に応じた資質・能力の向上	①教職員一人ひとりの専門性を深めるための研修の充実を図る。	①学校課題研修を中心とした授業公開、研究授業を学年で1回以上実施することができたか。					
		働き方改革の推進	①持続可能な働き方の模索と意識改革を図る。 ②終業時刻原則18:30、時間外在校時間月45時間以内を意識したメリハリのある働き方を実践する。	①働き方改革に関する研修、検討する場を設けることができたか。 ②時間外在校時間月45時間を超える職員を昨年度よりも減らすことができたか。					